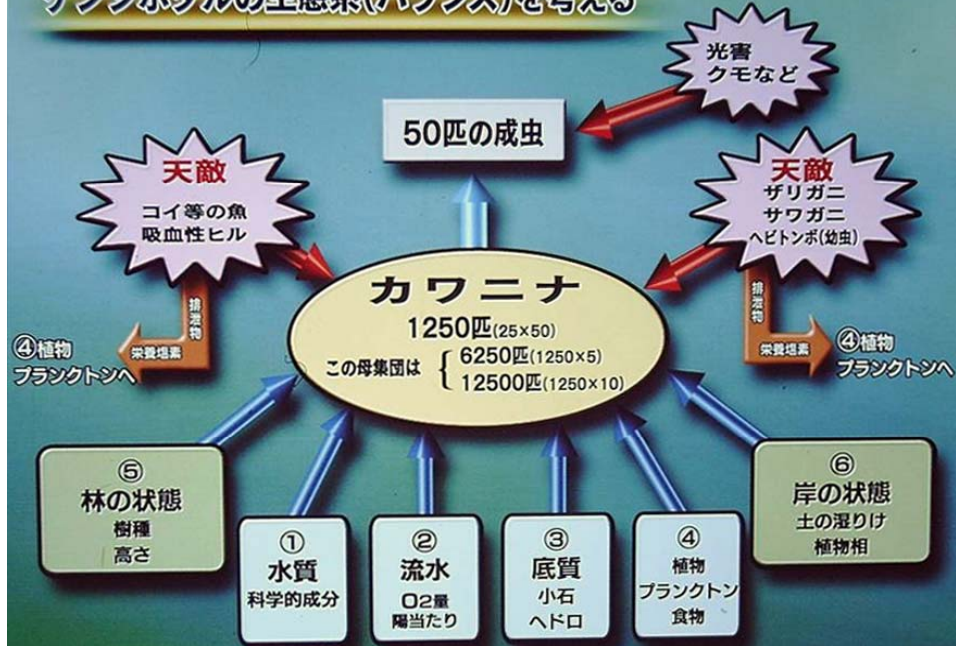


里地里山の保全・活用の取組における課題と技術的方策等

分類	里地里山の現状把握とモニタリングの推進／保護保全（地域内循環型）
手法名	ゲンジボタルの生活史と生態系特性から創出する生息環境づくり
主体	矢島稔（ぐんま昆虫の森名誉園長）
背景(地域の課題)	<p>日本人の多くが最も親しみを持つ昆虫の一つとしてホタルがあげられる。里地里山保全に関連してホタルの再生を試みる市民団体も増えており、生息環境づくりのための考え方や技術的知見が求められている。</p>
手法／方策の詳細	<p>ゲンジボタルが生息するための基本的な環境条件として、長靴で渡れる深さと流れの小川で、岸辺の植物が水の流れまで覆っており、岸辺の植物の背後に林があることがあげられる(写真1)。保全のポイントとしては、春～夏の期間岸辺を歩いたり草刈りをしないことが大切である。また、光に大変敏感な生き物であることから、成虫の発生時期に周囲の人工光を遮蔽することが重要である。</p> <p>その他、下記のチェック項目を確認し生息条件を整えることで、保護・保全効果が高まると考えられる。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>①水質(有害な科学的成分のないこと)</li> <li>②流水(酸素量・陽当たり)</li> <li>③底質(小石・ヘドロの有無)</li> <li>④植物(プランクトン・食物)</li> <li>⑤林の状態(樹種・高さ)</li> <li>⑥岸の状態(土の湿り気・植物相)</li> <li>⑦成虫に対する天敵(光害・クモなど)</li> <li>⑧カワニナに対する天敵(ザリガニ、サワガニ、ヘビトンボ(幼虫)、コイ等の魚、吸血性ヒルなど)</li> <li>⑨カワニナの量(1,250匹(母集団は6,250～12,500)のカワニナで50匹の成虫が羽化)(写真2)</li> </ol>
手法・技術的視点	<p>市民団体が行うべき保全活動や生息環境づくりのポイントを具体的に明示し分かりやすく紹介。</p>

ゲンジボタルの生態系を考えるためのチェックシート

ゲンジボタルの生態系(バランス)を考える



実行プロセス・運営体制のイメージ

図・写真資料

写真1:  
ゲンジボタルが生息する代表的な環境(岸まで植生に覆われていて、背後には林がある)



写真2:  
ゲンジボタルの幼虫が蛹化までに食べるカワニナの量



参考資料

平成25年度里なび研修会in千葉県八千代市パワーポイント資料「ゲンジボタルの生活史と生態系」(矢島稔)